

立命館大学大学院応用人間科学研究科開設10周年記念
国際シンポジウム

東日本大震災復興支援 シンポジウム

第2回

対人援助者がコミュニティに入るとき
—持続的な復興支援をめざして—

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から半年以上が過ぎました。被災地には直後からたくさんの個人や団体がボランティアに入りました。その一方で、現地の混乱を危惧して被災地に入ることを自粛する動きもありました。それぞれに固有の文化や関係性を持つコミュニティに対人援助者が外部から入ろうとすると、どんなことが起こり、どんなことに気をつけなければならないのでしょうか。被災地での対人援助活動について、これまでの経験を共有し、今後のよりよい支援に向けて、さまざまな視点から議論できればと思います。

日時

2011年11月13日(日) 13:00~17:00

※会場準備の都合上、あらかじめ参加申し込みをお済ませください。

会場

キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室

<プログラム>

開会挨拶 「応用人間科学研究科開設10周年記念国際シンポジウムを開催するにあたって」
荒木 穂積 (立命館大学大学院応用人間科学研究科長)

国際シンポジウム

シンポジスト

- 報告1
「地域に寄り添ってすすめる多世代交流を生かした被災地での遊び支援」
多田 千尋
(認定NPO法人日本グッド・トイ委員会理事長、東京おもちゃ美術館館長、芸術教育研究所所長)
- 報告2
「臨床心理士による東日本大震災における心理サポート」
河野 暁子
(国境なき医師団派遣スタッフ 臨床心理士)
- 報告3
「東日本・家族応援プロジェクト
～家族支援の土台としての物語記憶とコミュニティ・エンパワメント」
団 士郎
(立命館大学大学院応用人間科学研究科教授)

コメンテーター

George Kitahara Kich, PhD California Institute of Integral Studies
(カリフォルニア統合学研究所、アメリカ) 准教授、開業臨床家。

黄 辛隠 博士
蘇州大学教育学院(中国)教授。蘇州市青少年メンタルヘルスサポートセンター副センター長。
蘇州大学学生メンタルヘルス研究センター人材育成チーム主任。

Nguyen Thi Hoang Yen, PhD Vietnam National Institute of Educational Science
(ベトナム教育科学院、ベトナム) 副所長。ハノイ師範大学障害児教育開発・訓練センター所長。

司会

村本 邦子
(立命館大学大学院応用人間科学研究科教授)

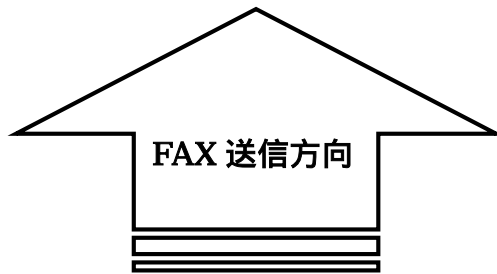
※当日の会場内での撮影・録音はご遠慮願います。

参加申し込み・お問い合わせ

立命館大学独立研究科事務室(応用人間科学研究科担当)

TEL:075-465-8375/FAX:075-465-8364 受付時間/平日9:00~17:30まで(土日祝除く)

主催:立命館大学大学院応用人間科学研究科



第2回 東日本大震災復興支援シンポジウム
対人援助者がコミュニティに入るとき
持続的な復興支援を目指して

参加申込用紙

申込日		年	月	日
氏名				
所属等				

ご記入いただいた個人情報は、参加者集約のために使用し、厳重に管理いたします。目的を超えて利用することは一切ございません。

お申込先：立命館大学独立研究科事務室

FAX：075-465-8364

メールでのお申し込みは、doku-ken@st.ritsumei.ac.jp まで